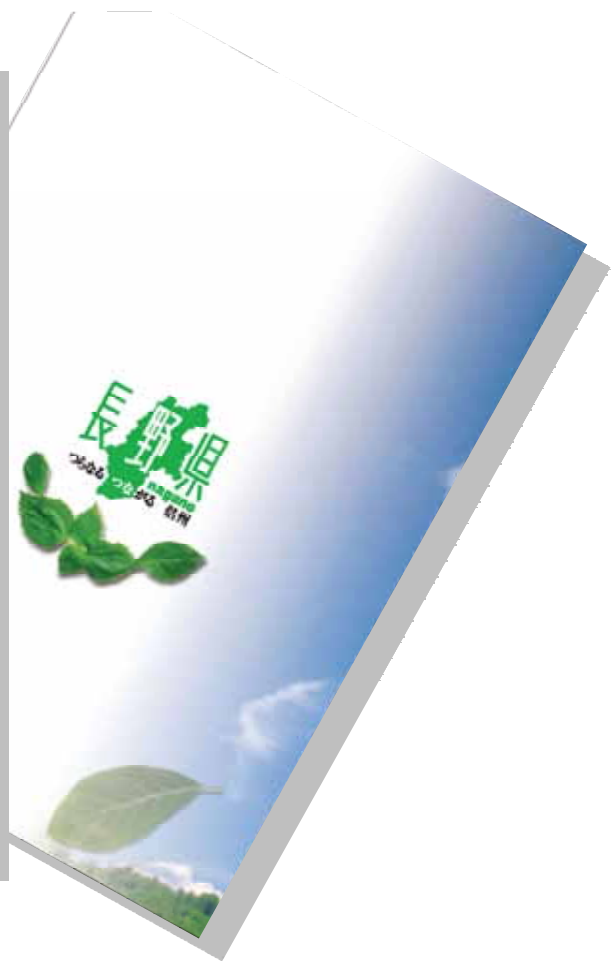


「みどりのコンサルタント事業 事例集」

事例集の内容を一部抜粋して記載します。



みどりのコンサルタント事業 事例集 もくじ

はじめに

I 事例集を利用するに当たっての注意事項	1
1 樹木の診断方法	2
2 土壌改良とマルチング	4
3 空洞処理と外科手術・不定根の誘導	5
4 主な病害虫の症状と対策	6
5 正しい剪定方法	7
6 農薬の使用について	8
7 その他	8
II 事例集	9
1 マツ類	
(1) 注意事項	13
(2) 事例 (5件)	14
ア アカマツ	14
イ アカマツ	16
ウ クロマツ	18
エ クロマツ	20
オ ゴヨウマツ	22
2 その他針葉樹	25
(1) 注意事項	27
(2) 事例 (8件)	28
ア コウヤマキ	28
イ カラマツ	30
ウ イチイ	32
エ イチイ	34
オ ヒマラヤシーダー	36
カ スギ	38
キ カヤ	40
ク イチョウ	42
3 サクラ類	45
(1) 注意事項	47
(2) 事例 (4件)	48

ア エドヒガン	48
イ シダレザクラ	50
ウ シダレザクラ	52
エ ソメイヨシノ	54
4 ケヤキ他広葉樹	57
(1) 注意事項	59
(2) 事例 (16件)	60
ア ケヤキ	60
イ ケヤキ	62
ウ ケヤキ	64
エ クヌギ	66
オ 世界の樹木 (オリンピック記念樹)	68
カ サルスベリ	70
キ メグスリノキ	72
ク フジ	74
ケ ハナノキ	76
コ ヤマナシ	78
サ マユミ	80
シ イロハモミジ	82
ス レッドロビン	84
セ シラカシ	86
ソ モッコク・ナンテン	88
タ タラヨウ	90
5 ツツジ類	93
(1) 注意事項	95
(2) 事例 (4件)	96
ア キリシマ系ツツジ	96
イ ツツジ類	98
ウ トウダンツツジ	100
エ シャクナゲ	102
Ⅲ その他	105
1 参考文献	107
2 日本樹木医会 長野県支部の紹介	107



1 注意事項

マツ類の注意事項

マツ類の中では、アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツが話題にのぼります。この内クロマツは海岸線に多く分布し、長野には自然分布せず植栽された種です。庭園にあるゴヨウマツはクロマツを台木にした接ぎ木物が多いです。

マツ類で留意すべき点は次の項目があげられます。

1 マツ類

1 マツ材線虫病（松くい虫）の被害

マツの樹体に侵入したマツノザイセンチュウが異常増殖して、マツの通水機能が異常をきたし、水分が上がらなくなるため枯死します。対策として、媒介昆虫であるマツノマダラカミキリの後食を防止する薬剤の予防散布、感染源を除去する伐倒駆除と、樹体に侵入したセンチュウを駆除する樹幹注入があります。樹幹注入は本来自然のマツ立木を基準としており、胸高直径に比べ材積が少ない庭木は、樹体内の薬剤濃度が高くなって葉害が発生しやすいため、使用に当たっては十分な注意が必要です。

2 手入れの時期、程度の誤り

一般に5月のみどり摘みと、秋の不要枝剪定と古葉取りがあります。冬芽が形成された夏以降に樹勢を見ず形にこだわって手入れを行ったり、その木の手入れサイクルを変えると一般に「手入れのしすぎ」現象が発生し冬期間に弱ったり、枝枯れなどを起こす場合が多いので注意が必要です。

3 施肥

マツは岩山の土壌の無い様な場所でも立派に生育しています。基本的には施肥は不要です。有機質系堆肥が多い場合、葉が黄変します。特に化学肥料を嫌います。庭木の場合高く盛土して植栽し、乾燥防止のための敷きワラ程度とします。弱った木は炭や硬質赤玉土を入れ共生菌の活動を助けます。強剪定により衰弱した場合は、有機質系葉面散布剤の散布が効果的です。

4 日陰

マツは陽樹で日当りを好みます。周辺の木が大きくなったり、建物の陰で日当たりが悪くなると、とたんに樹勢が弱ります。また、下枝で日陰になる部分も弱ります。

5 除草剤・農薬

マツ類は除草剤に対し感受性が強く、場合によっては枯れます。遠くから雨水に運ばれて来て影響を受ける場合もあります。基本的に庭では除草剤は使わないことにします。また、農薬にも敏感なので果樹園に接するマツは留意します。

6 つちくらげ病

根元に焚き火をすると、つちくらげ病を発生させ、根が腐朽して枯れます。マツの周辺の焚き火は厳禁です。

1 注意事項

その他針葉樹の注意事項

1 コウヤマキ

一般に刈り込み手入れが行われる傾向にあるが、この手法では樹勢が弱るので本来すかし手入れにより樹形、樹勢を保つべきです。

2 イチイ

剪定は形にこだわらず、すかし手入れであるべきです。地表部に吸収根が多いので敷きワラ養生を行います。即効性化成肥料のやり過ぎは肥料焼けを起こしやすいので注意します。

3 ヒマラヤシーダーの大規模剪定

ヒマラヤシーダーは成長が良いですが、ある時期に大規模な剪定を行う場合次に留意します。

- (1) 剪定の季節は春先とします。
- (2) 剪定の緑量は全体の1/3程度とします。
- (3) 枝は幹から切落す事を原則とし樹形を保ちたいものです。

4 スギ

スギの衰退の原因の多くは水環境の変化にあります。既存の水路をU字溝や三面コンクリート化する場合は浸透穴をつくる等、水環境に変化がない様留意します。

5 樹木・樹皮の損傷の手当

樹皮が剥離した場合は、その縁部分を鋭利な刃物で切り取った後、切口癒合剤を塗布し、形成層が発達する手助けをします。損傷部が目立った場合は幹巻き材などで被覆保護します。

2 事例

ウ イチイの枝折れについて(県指定天然記念物)

樹種区分

イチイ

推定樹齢

不明・記載なし

地 域

長野市

相談内容

雪害による枝折れの処置及び今後の活性化への指導説明。

II

事例集 2 その他針葉樹

指導診断

年月日 平成18年7月11日

内 容

- ①本樹主幹は空洞化を呈し、不定根発生が極めて多く将来幹化する世代交代根も見られる。
- ②本樹全体に中・小枝枯損が目立ち樹勢が弱い。
- ③当年枝葉の伸長度・過密等疎の状況にて、根系になんらかの阻害因子が働いた可能性が高いと考えられる(例、化学肥料による根系阻害)。

今後の対応

- ①樹勢回復に化学肥料は中止し、樹冠下へ微生物活性肥料(どんとこい、グリーンキング) 3.3㎡当り300g施肥後、必ず敷ワラ施工の実施。
- ②樹勢回復まで毎年樹冠下へ敷ワラ施工の実施。
- ③肥料過多の場合は活性化肥料も中止し樹冠下、ボヤ炭(消炭) ㎡当り径30cm×深さ30～50cmを2ヶ所、土7:炭3にて混合投入、敷ワラ施工の実施。

Ⅱ 事例集 2 その他針葉樹
イデイ

現場の状況



全 景



主幹空洞化状況

2
その他針葉樹



上部状況



主幹不定根状況

1 注意事項

サクラ類の注意事項

サクラは、我々の生活の中で身近に親しまれている樹木です。種類も多く性格も多様です。ソメイヨシノやヤエザクラなどは園芸種で、里山などに自生するオオヤマザクラやカスミザクラとは異なります。

1 枝は切っても良いか？

「サクラ切るバカ、ウメ切らぬバカ」と言われる様に、サクラは切口の癒合が遅く切口から腐朽が入り易い特性があります。したがって切口断面が大きくなならない若木の時から将来の姿を想定して剪定し、切口にはトップジンMペーストなど切口癒合剤を塗布して保護します。

2 てんぐ巣病対策

特にソメイヨシノの壮老齢木に発生する傾向が強く、てんぐ巣病のまん延による被害はサクラの名所における美観を損ね大きな問題となります。

病気は糸状菌の一種が寄生するもので、胞子が開花期をすぎた4月下旬～5月上旬に雨滴にまじって飛散・伝播するので、冬期間に、病巣部のふくらみを残さず、一段下から切り取り焼却処分します。切口の処理は①に準じます。

3 消毒に注意

サクラ類はアメリカシロヒトリやイラガなどが発生し易く、この対策としてDDVP乳剤の散布が行われますが、サトザクラ系のヤエザクラなどは落葉等の薬害が発生するので注意します。

4 施肥

良い花を咲かせたい場合は、寒肥又は花が終わった後にお礼ごやしとして、完熟堆肥など有機質系の土壌改良材を散布します。

1 注意事項

ケヤキ他落葉広葉樹の注意事項

1 ケヤキ

ケヤキの根は浅根型で、地表面に多くの吸収根が発達しています。したがって特に踏圧や盛土に弱いので、踏圧を防止し柵で囲い、硬い土壌をほぐし落ち葉やワラ敷をすると樹勢は回復します。また盛り土などは除去し、元の地盤にもどし、落ち葉や敷ワラ養生を行うと同様の効果があります。

2 フジ

フジは水が欲しい木であるので、根元にワラマルチ等を行い乾燥させない様にします。またフジの花つきを良くする方法として、環状剥離を行うというやり方があります。コブ病のコブは、手前部分から切取り焼却します。コブになり易い性格を持った樹もあるのでその場合は次々と発病します。

3 カエデ類

「モミジは片枝で持つ」と言われるくらい、幹が空洞化して南又は西側の樹皮がなくなり易い傾向があります。これは葉と根のバランスがくずれ、糖分の高い水分が幹に多く蓄積されアリやカミキリムシなどの虫にねられ易い状態になるためです。加えて樹皮が弱い種類が多い事もその要因の一つです。対策として剪定をしたら枝下あたりの根を切って水収支のバランスをとります。

またカエデ類は「早寝、早起きの木」とされ早春にはすでに樹液が流れ始め、この頃剪定を始めると樹液が吹き出し、樹勢の衰弱につながるので注意します。

ゴマダラカミキリによる根元への穿孔害が多いので、根元に木くずがでていないか注意し、木くずが見られたら、すみやかに幹内の幼虫を駆除します。剪定は、あばれや徒長枝をおさえるため、手で折るなど弱剪定とします。

2 事例

セ 南羽場のシラカシの樹勢回復について (県指定天然記念物)

樹種区分

シラカシ

推定樹齢

不明・記載なし

地 域

飯島町

相談内容

樹勢が衰退傾向になっているので、応急的に指示を受けて施肥をしたが、効果は下枝部に作用して、樹冠部は葉形は小さく、葉色も淡黄で良くない。
こうした事情から、よりよい樹勢回復を実行したいので指導されたい。

指導診断

年月日 平成16年8月25日

内 容

樹勢回復については、以下のとおり。

- ①土壌改良。
- ②不定根誘導。
- ③樹幹下部の空洞閉塞。
- ④樹冠部の大枝切除。
- ⑤不定枝剪定及び支柱建立。

今後の対応

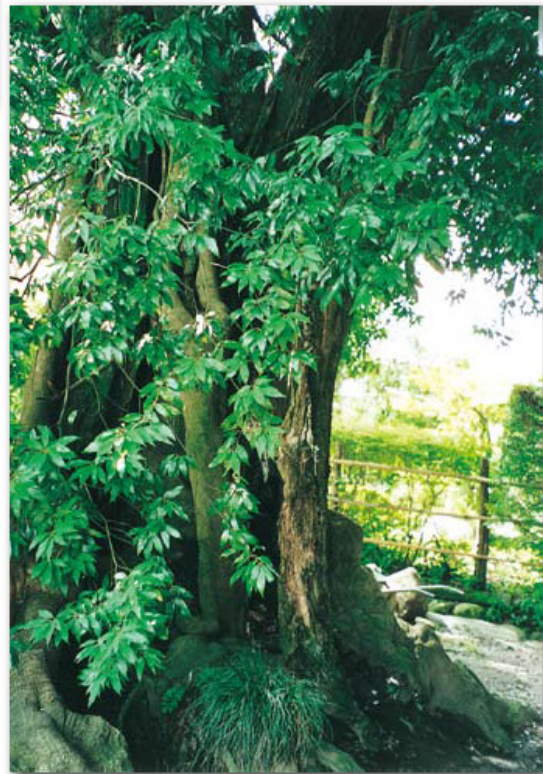
実行は厳寒期を除いた休眠期の3月末迄に終了するのが望ましい。

Ⅱ 事例集 4 ケヤキ他広葉樹
シラカシ

現場の状況



南羽場シラカシ全景 北側から
樹冠も大きいが、下部の不定枝から出た
枝葉が繁茂している



樹幹下部にある空洞 中央の奥に見えるのは不定根

4 ケヤキ他広葉樹

1 注意事項

ツツジ類の注意事項

ツツジ類は、一般に性質は強健で移殖し易く、強い剪定や刈り込みに耐えてよく萌芽します。次の点に留意してよりよい管理を行いましょう。

1 花が咲かない

花芽分化期に刈り込みを行うと花芽を刈り込んでしまうので、翌年花が咲かなくなります。したがって剪定（刈り込みを含む）は、花が終る頃から1ヶ月以内に行います。

また、ベニモンアオリンガによる花芽の食害による場合は、幼虫発生期に殺虫剤を散布します。

2 葉が黄変する

土壌がアルカリ化すると鉄、マグネシウムなどの微量要素欠乏となり葉が葉脈を残して黄～黄白色になります。この場合ピートモスや過リン酸石灰など土壌の酸性化を図る改良材を施用します。

3 生育が良くない

ツツジ類は根詰まりが発生する場合がありますので、この場合は根切りや根のほぐしを行い、からみ根を再生させます。

4 葉水の大切さ

夏の日中、熱くなった葉への水やりは厳禁で、ツツジ類は特に葉焼けをおこしやすいので注意します。水やりは朝夕とします。

5 グンバイムシ、ハダニ対策

グンバイムシ、ハダニは土が乾燥すると発生しやすいので上記の水やりが大切です。また枝が密になり風通しが悪くなると発生しやすいので枝ずかし剪定を行います。また、薬剤防除として、エチルチオメトン粒剤を春、および梅雨時期に株元の土壌にすき込みます。